

目次

1.ピクトグラム

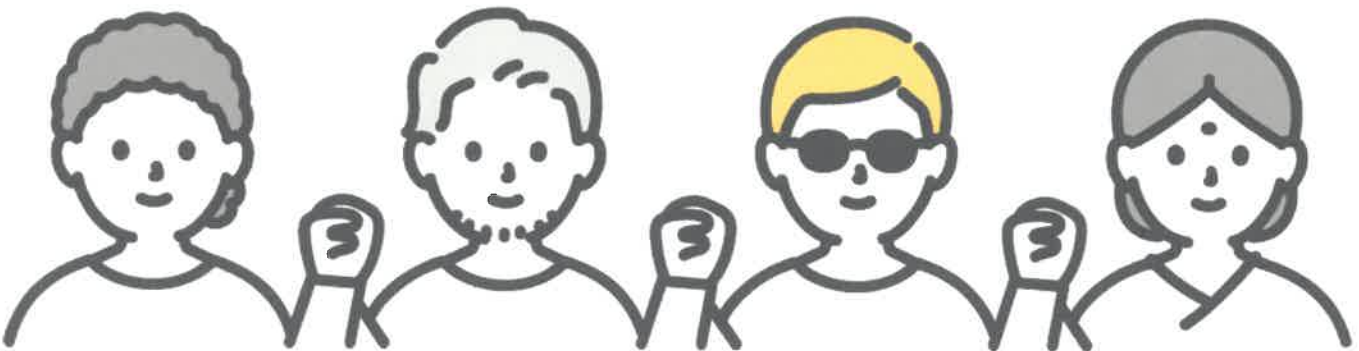
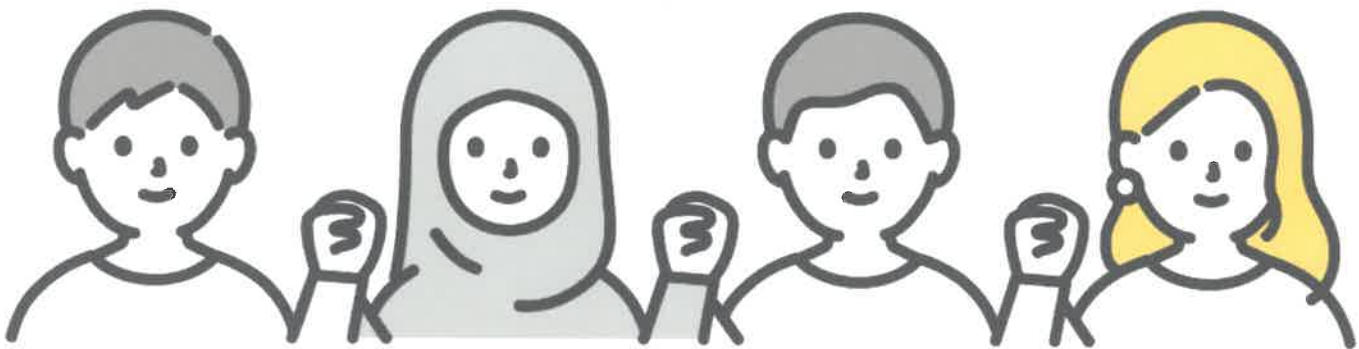
2.他国語表記

3.まとめ

初めに

今回、『私たちは外国人のルーツを持つ人が住みやすい街づくりに』という探求テーマのもと、ピクトグラムを増やす、他国語表記を増やすという結論になりました。

外国人のルーツを持つ人がどんな感覚で今を生活しているのかと尋ねることを探求しました。



監修 園田唯衣

文 石田智大

まとめ 柿木心吾

1.ピクトグラムを増やす

ピクトグラムとは、一般に「絵文字」「絵単語」などと呼ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号（サイン）の一つである。地と図に明度差のある2色を用いて、表したい概念を単純な図として表現する技法が用いられる。

「増やしたことでわかる利点」

- ・イラストは世界共通であり、一目で理解することができるため、どのような人でもわかる。
- ・また、字を読めない小さい子でも理解することができる。
- ・お年寄りで小さい字が読めない人でも理解可能。
- ・「こんなことするものなんだな」と想像力が発達する。勉強になる。



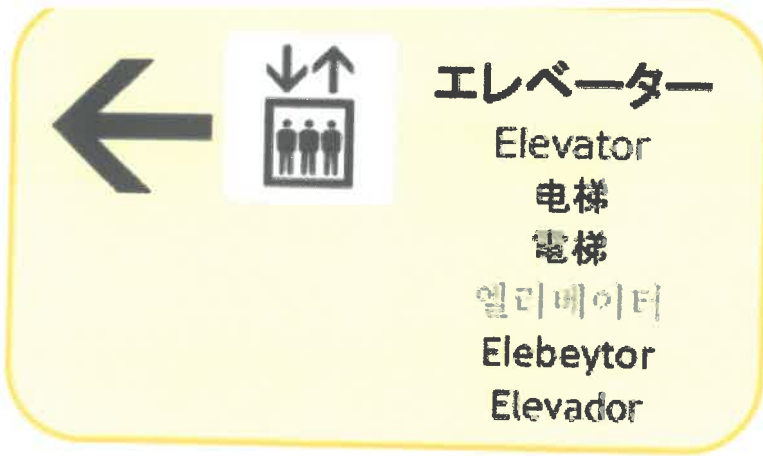
例えば、このようなピクトグラムが出てきたときに、「**頭上注意**」を表しています。



こちらのピクトグラムではイートイン（飲食）を表しています。

このようにピクトグラムは誰でも、一目で何を表しているかがすぐに分かります。
だからこそ、私たちはこのピクトグラムを増やすことを提案します。

2. 簡単な他国語表記を増やす



私たちの身の回りには、このような他国語表記があります。
しかし、外国の人は日本人の人に「道はどこですか？」などと聞いてくるイメージがありますよね。
これを私たちは、他国語表記が少ないことが影響していると考えました。



私は思いました。

外国人が日本語を覚えればいいと.....

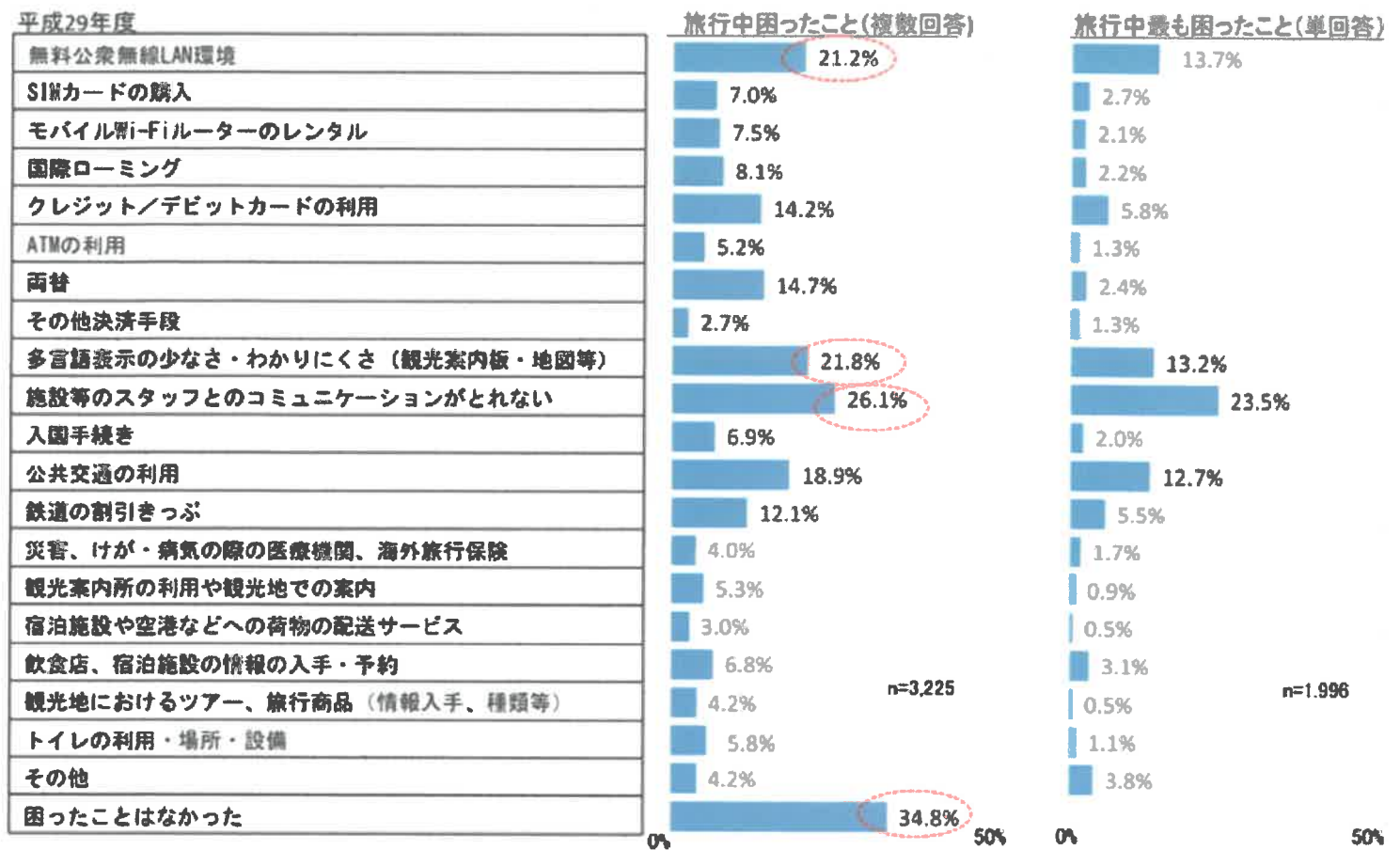
私のような考えの人も中に入るかもしれません。

しかし、そう簡単には日本語を覚えることはできないのです。

日本語は、主に漢字、ひらがな、カタカナと3つの言語を覚えることが求められます。海外から留学などしてくるひとは、主に中学生が多いと言われています。つまり、高校受験の2年後、3年後までにこの3つの言語を覚える必要があります。

このように、無理やり外国人に日本語を教えさせるのは不可能と言ってもいいでしょう。

だからこそ、外国の人に不便なく、便利な生活を送るためには、やっぱり、他国語表記を増やす事が最善の手だと、私たちは思うのです。



この表をご覧ください。

赤い点々丸を見ると他国語表記を導入することがどんなに最適化がわかるはずです。

英誌「エコノミスト」で毎年発表される、「世界で最も住みやすい都市ランキング」。2021年の結果、トップ10内に4都市がランクインしているオーストラリア。これは世界最多。世界でもっとも住みやすい国と言っても過言ではないのではないのでしょうか。

「オーストラリアが住みやすい。」と言われる理由を私たちは考えてみました。

お金があまりかからない

これが一番の理由だと思いました。

オーストラリアは野菜や果物がとても安いのです。

例えばマンゴー。マンゴーは種類によって値段が異なりますが、日本で買うと最低で約400円はかかります。

日本は一つ一つの値段がとても高いです。

ガス代や水道代、家賃がとても高いので多くの家庭は不満を抱えていると思います。



外国人の人は日本の家賃等々を見て、おそらく目が飛び出るようにびっくりするでしょう。

日本はそれなりに住みにくい国なのです。

しかし、これを改善する方法を私たちは考えました。

その方法とは、自給自足です。

自給自足とイメージすると、おそらくみなさんは自分でお米を作ったり、牛を飼って牛乳を取ったり.....

ということを思い浮かべると思いますが、近代の自給自足とは節〇です。

例えば節水。節水は、さほど難しくはありません。

お風呂の湯船の余った水を洗濯機の水として使う。というやり方があります。

これは、すぐにできる取り組みです。

また、一石二鳥とも言えます。

なぜなら、今世界で取り組まれている「SDGs」にも関わっているし、外国人が日本にも住みやすい暮らしができるからです。

このように、私たちには行わなければならない役目があると思いました。

まとめ

これらのように、私たちはピクトグラムと、他国語表記を増やすという取り組みを提案します。

外国のルーツを持つ人が日本に住みやすくするためには、ただ日本の悪いところを提示し、それを改善するのではなく、より良い日本にするために今の日本とつなげられるところを見つけていく必要があると思います。

外国人が今困っている状況を、誰もができる、見える社会へとつなげていくことが現代社会において、最も必要とされていることだと思います。

また、今の日本を見返し、じっくりと向き合うことも大切だと思いました。

これで、私たちの探求レポートを終わります。